

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
低所得者に対する支援と生活保護制度 Support and Public Assistance for Low-income Households		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(社会福祉士国家試験受験資格取得 必修 社会福祉主事任用資格に係る科目)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会保障論Ⅰ・Ⅱ、高齢者福祉・障害者福祉・母子福祉等関連科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
山田 昇	本館2F	授業時に説明します。		授業中に指示します
授業の概要				
生活保護を中心とする公的扶助は、憲法25条による国民の「生存権」を保障するものとして存在する。生活保護等公的扶助制度には、一定の原理・原則がある。制度の意味と現状を学習し、生活保護の運用も含めてその在り方について学習する。また、貧困予防としての低所得者支援対策についても学習する。				
授業の目標				
①公的扶助の歴史と発展、社会的背景から、生活保護制度の原理・原則・運用や現在の課題等を説明できるようにする。 ②社会経済情勢の変化と生活保護制度、ホームレスの自立支援などについて説明できるようにする。 ③生活資金の貸付け等低所得者支援について説明できるようにする。 ④生活保護制度における多職種連携、ネットワークと実際について説明できるようにする。				
授業の方法				
テキスト及び視聴覚教材を活用し、講義やアクティブラーニング形式に進める。				
学習の成果(学習成果)				
①生存権と生活保護制度の関係を理解し、説明ができる。 ②最低生活費の基準について理解し、説明ができる。 ③貧困の背景及び要因について理解し、説明ができる。 ④生活保護制度における多職種連携の重要性を理解し、その必要性について説明できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(授業の進め方・留意事項・成績評価等)			
第2回目	公的扶助(生活保護)の概念と歴史について			
第3回目	資本主義の発達と社会保障制度及び公的扶助制度について			
第4回目	現代社会における公的扶助の役割と意義・機能について			
第5回目	生活保護制度の現状① 生活保護の動向と変化及び対応について			
第6回目	生活保護制度の現状② 生活保護制度の原理と原則及び運用について			

第7回目	生活保護制度の現状③ 制度の内容と保護の種類（1）について
第8回目	生活保護制度の現状④ 制度の内容と保護の種類（2）について
第9回目	生活保護制度の運営及び実施体制（福祉事務所）について
第10回目	生活保護と社会福祉サービスとの関連について レポート「生活保護の現状と課題について」第11回の授業時に提出
第11回目	低所得者対策と自立支援について
第12回目	生活保護と生活支援におけるネットワーキングについて
第13回目	ホームレス（路上生活者）と生活保護について
第14回目	生活保護制度の課題について
第15回目	現代の貧困と生活保護及び低所得対策の課題 授業のまとめ

#### 成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。これらを総合的に判断する。
レポート	20%	提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。最高評価であるSは意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。
調査報告書		
小テスト	10%	授業において小テストやリアクションペーパーを行う。学びの振り返りができる。求められたテーマについて自分の考えが明確に示されている。
試験	60%	論述、記述式の試験を行い評価する。論述は根拠(エビデンス)に基づき自分の言葉で述べられていること。
発表内容（態度含む）		
その他		

#### 教科書と参考図書

教科書：『低所得者に対する支援と生活保護制度』第3版 社会福祉士養成講座・中央法規  
 参考書・参考資料：授業の都度指示、資料を配布する。

#### 履修上の留意点・ルール

新聞等により生活保護の動向、ホームレス（路上生活者）の動向を把握しておくこと。  
 目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにとること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。